

プレゼンもチームで FLS 私たちのモットー

【IOFメンター企画 FLSカフェスペシャル】

2026年9月12日(土) 15:00～17:00 | 第1会場 (1F 展示ホールB)

日本骨粗鬆症学会：マネージャー教育研修単位

座長 瀧川 直秀（西宮協立脳神経外科病院 整形外科）／田中 雅博（ベルピアノ病院 整形外科骨粗鬆症センター）
安岡 宏樹（所沢白翔会病院 整形外科）

1 FLS Team Reboot! ケアミックス病院新規開院におけるFLSチームの再始動—

安岡 宏樹 ほか（所沢白翔会病院 整形外科・リハビリテーション科・放射線科）

IOF金賞チームが病院移転で解散するも、新規開院に合わせて再始動。開院前からの多職種勉強会・DXA体験イベント、専任クラークによる骨折患者データベース構築を進め、ASBMR 2024の最新アルゴリズムに沿ったAnabolic Firstな治療を実践。

2 当院のFLS活動とその結果について

板橋 泰斗 ほか（十和田市立中央病院 整形外科・リハ科・看護科・薬剤部・栄養科）

2016年開始、骨粗鬆症マネージャー11名を含む全21名体制。血清Ca値で層別化した独自の薬剤選択チャート、転倒方向別の運動療法冊子を活用。FLS介入後の二次骨折率は8.8%（未介入の既報は16.4～20.0%）。歯科医師会・泌尿器科とも連携。

3 システムで繋ぐ持続可能な骨折リエゾンサービス —「十日町モデル」の構築—

倉石 達也 ほか（新潟県立十日町病院 整形外科・歯科口腔外科・薬剤部／新潟大学）

高齢化率40.3%の地域で、人事異動と人手不足を克服する仕組みを構築。骨粗鬆症フォーミュラリーに基づく薬剤師主導スクリーニングとクリニカルパス化、Slackによる多職種共有、「リエゾン手帳」を情報ハブとした地域連携で属人化を排除。

4 名戸ヶ谷流「柏方式2.0」、チームでつなぐ深化の軌跡

國府 幸洋 ほか（名戸ヶ谷病院 整形外科・看護部・リハ科・薬剤部・放射線科）

全身を対象とするOLSを基盤に「柏方式」を移籍先で再構築し、IOF Capture the Fracture Gold認定を取得。早期手術加算を活かした大腿骨近位部骨折の早期手術に加え、人工関節など待機的手術患者の骨脆弱性もスクリーニングし先制介入。

5 都市部における連携を見据えたFLS活動の現状と課題 —兵庫県尼崎市での取り組み—

合志 明彦 ほか（敬誠会合志病院）

人口45.7万人・高齢化率27%の都市部。2018年からFLSを開始し早期手術と多職種病棟回診を確立、対象を椎体骨折へ拡大。地域医療ディスカッションや施設向け啓発研修を実施する一方、病院間をまたぐFLS追跡情報の共有スキームの欠如が課題。

6 OLSチームビルディングの経験と課題 ～TAMATSUKU RE:BONE チームで何ができたか～

吉田 昇平 ほか（JCHO玉造病院 整形外科・歯科口腔外科・放射線室）

2018年に多職種チームを結成し、治療介入率は53.9%（2019年）から84.4%（2021年）へ向上。歯科パノラマX線によるスクリーニングと専門外来を連結。「学ぶ・測る・食べる」院内啓発で職員のDXA検診と新たなマネージャー育成につながった。

7 FLSについて語るときに僕たちの語ること

小牧 亘 ほか（小牧病院 整形外科）

52床の病院でOLSから二次骨折予防特化のFLSへ再構築。骨密度検査率65.7→93.4%、治療開始率66.2→91.7%、二次骨折率15.4→7.7%と有意に改善。IOF評価は金賞で、認定後は待機手術症例も増加し病院全体の活性化につながった。